



令和8年2月26日発行

学校だより

第20号

江戸川区立松江第三中学校

〈 教育 目 標 〉

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

今回はオリンピックを話題に・・・

校長 小澤 託

2月4日から始まったミラノ・コルティナ2026オリンピックが22日に閉幕した。

ちょっと気が早いですが、同会場で行われるパラリンピックは、3月6日から開催され、加えて WBC も始まってしまふ…。今やスポーツはやるよりも、観る方が得意になってしまった私にとっては、うれしいかぎりである!!

ちなみに、スポーツ全般観るのは得意なので、サッカー、バスケ、バレー、ラグビー等もネットサーフィンのように、テレビのリモコンを駆使して観戦している。今回の冬季オリンピックで獲得したメダル数は、過去最多の記録を更新したとありましたが、パラリンピックの選手たちにも思わず期待してしまいます。

さて今回は、そのミラノ・コルティナオリンピックのある競技種目で強烈に印象に残った競技を紹介します。大会9日目に行われたクロスカントリー女子30kmリレー。

それは、4人の選手が7.5kmずつ走行し、順位を競うクロスカントリー女子の30kmのリレーで、金メダル候補のスウェーデンの第2走者が走行中に起きたアクシデントでした。首位で第1走者から受けた第2走者のエバ・アンダーション選手は、登りのカーブで転倒し、順位を落とした。さらに、下りでバランスを崩し、1回転前転するほどの転倒をした。不運は続き、この転倒で右のスキー板のビンディング(くつと板をつなぐ部品)が外れ、板を身につけることができない状態に…。

それでも、彼女は第3走者につなぐため、左足のみのスキー板で走り続けた。チームスタッフが替えのスキーをもって駆けつけ、再び競技に復帰するまでにかなりの時間を要し、その間に多くの選手に抜かされた。メダルから大きく遠く8位に転落。誰もがメダルは無理と予想したが、ここから第3・4走者が驚異の走りをし、スウェーデンは銀メダルを獲得した。

顔にケガをしているのに片方にスキー板を抱え走り続けた彼女の走り。その姿を見て奮い立ち、ものすごい勢いで猛追し8位から2位まで追いつけた後続の選手たち。4人が互いを信頼し、最後まで1つとなって勝利を目指す姿。感動し、思わず泣いてしまったのは私だけではないはず…。

人それぞれ感動する場面は違うでしょう…。

選手一人ひとりに大舞台のオリンピックに出場するまでのストーリーがあり、今回の結果がある。おそらく、全ての選手に、私たちでは想像つかないような出場までの困難や苦難があったはず。それらを乗り越え、諦めず、目標に向かう姿に、私たちは勇気づけられ心を揺り動かされるのだと思います。

ただ一つ、選手たちに共通するものがあるとしたなら、やはり“あきらめない”強い気持ちだと思う…。

もう一つ加えるなら、インタビューされている選手が必ず口にしていて、支えてくれた人たちや共に歩んだ仲間への感謝の気持ち。周りの“人を大切にする”心。

生徒の皆さん!

人(誰か)を感動させる必要はありませんが、

自分の夢や希望に向かって“あきらめない”気持ちと“人を大切にする”心を伸ばしていこう!!

～ 別な視点から… ～

ある大学の経済学部の先生のお話を聞く機会がありました。

その昔、時は江戸時代 17 世紀

三井越後屋という呉服屋さんが画期的なビジネスの方法を始めた…。

- ・店頭販売
- ・現金払い
- ・誰でも平等に掛け値なしで販売

この3つを打ち出し宣伝をした広告が世界最古の広告（日本発）で、

かつ、革新的な販売方法だった・・・と。

名残か伝統かは分かりませんが、その紙袋はおしゃれで、誰が見ても分かるくらい有名ですよ。

最古の広告から学んだわけではないのですが、広告を作る上で、重要なのは、次の4点だとその先生はおっしゃっていました。

①何を売るか ②いくらで売るか ③どうやって売るか ④どうやって知ってもらうか

確かに、と思いながら…

広告を作る上で・・・を、様々な言葉に置き換えて考えみると、様々な方向に広がりそうな感じがします。

勉強する上で・・・？ 部活で選手になる上で・・・？ もっと上手になる上で・・・？
などなど

考え始めたらキリがないですね。しかし、そうやって考えることが次へのステップにつながるのでは？

期末考査が終わり、いよいよ3月。次に向かって考えることが必要な時期だと思いますよ。

ちなみに、江戸時代の近江商人の心得に“三方よし”という言葉があります。

「売り手よし 買い手よし 世間よし」

現在もこの心得を大切にしている企業はあるとのこと。さらに、今は「地球よし」

「未来よし」の言葉も付け加えられているらしいです。

様々な言葉に置き換えて考えて、さらに実践みたら、“何によし”になりますか？

～年度末にむけて～

学年末考査も終わり、生徒はホッとしていると思います。

これから、採点に入り、1年の締めくくりとなる通知表の作成へと移っていきます。

本校では、通知票の担任による所見は3学期のみとなっております。所見には、1年をとおして、担任が生徒と共に過ごした中で感じた成長や思い・願いが詰め込まれています。保護者の多くの皆様は、どうしても、各教科の評価が気になるころだとは思いますが(私もそうでした…)、ぜひ、所見に記載されている内容にじっくり目をとおし、読んでいただければ幸いです。できれば、お読みになっていただいた後に、お子様とその内容について話していただけるとさらにうれしいです。

学級・学校の様子や友達や部活の様子など、共通の話題で1年を振り返り、次年度に向けて一番近くにいる保護者と話すことが大切ですので……